

第 4 節 地 盤 沈 下

1 地盤沈下調査

(1) 地盤沈下変動量

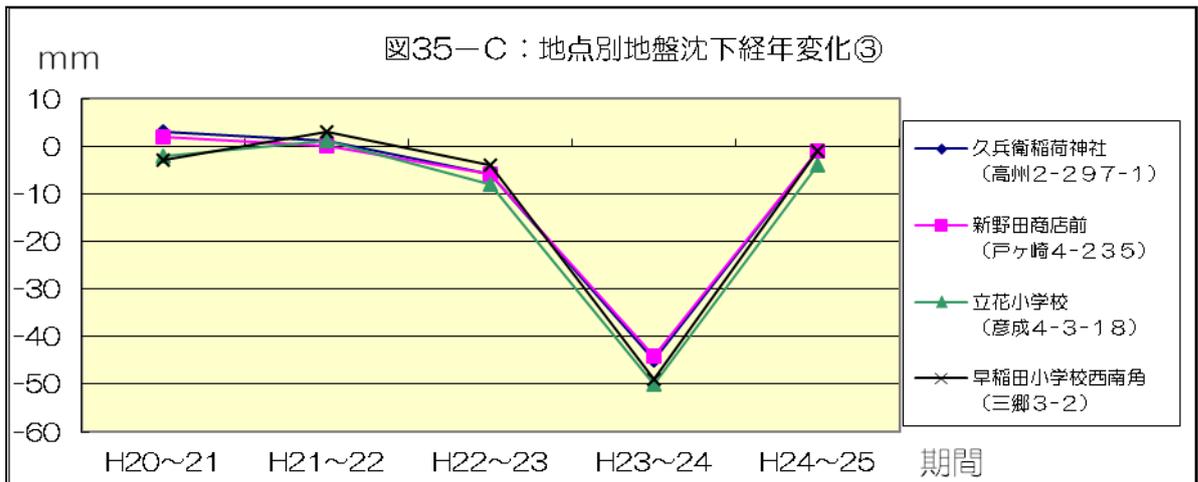
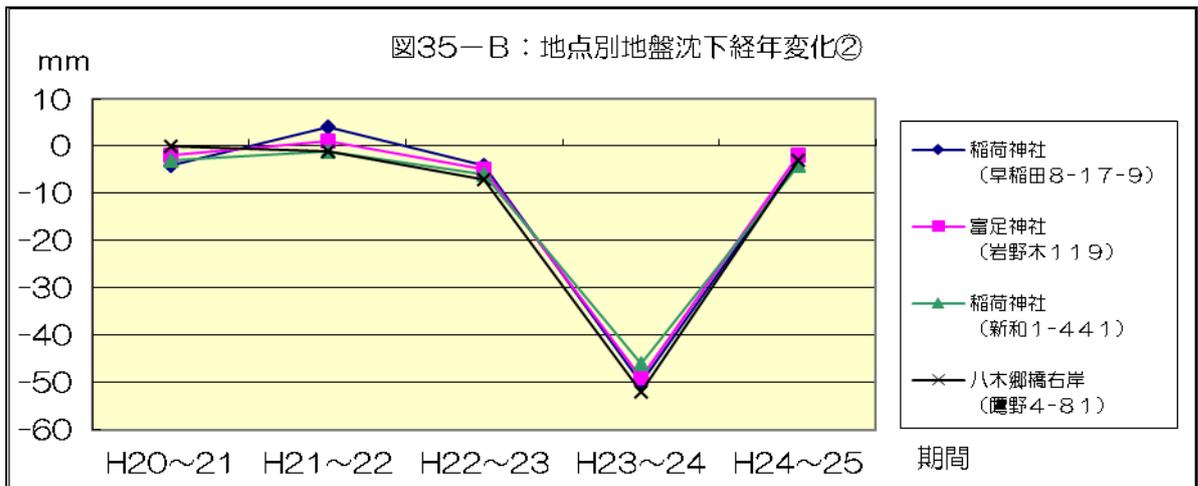
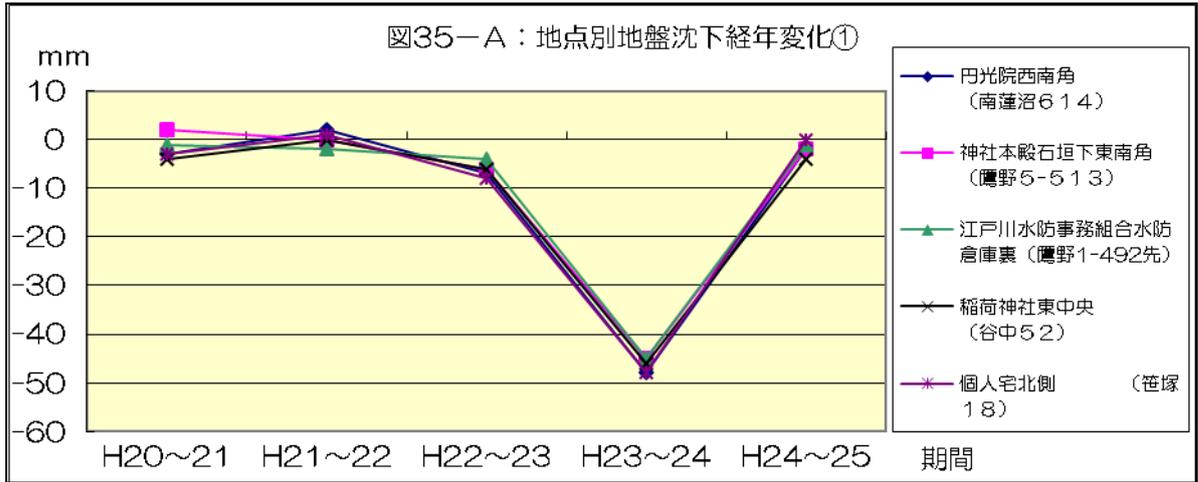
三郷市の地盤沈下に係る調査は、埼玉県が市内 13 ケ所の地点で測量調査を行なっている。その調査結果は表 32 及び図 32-A・B・Cのとおりである。

地盤沈下変動量 [単位：mm] (表 32)

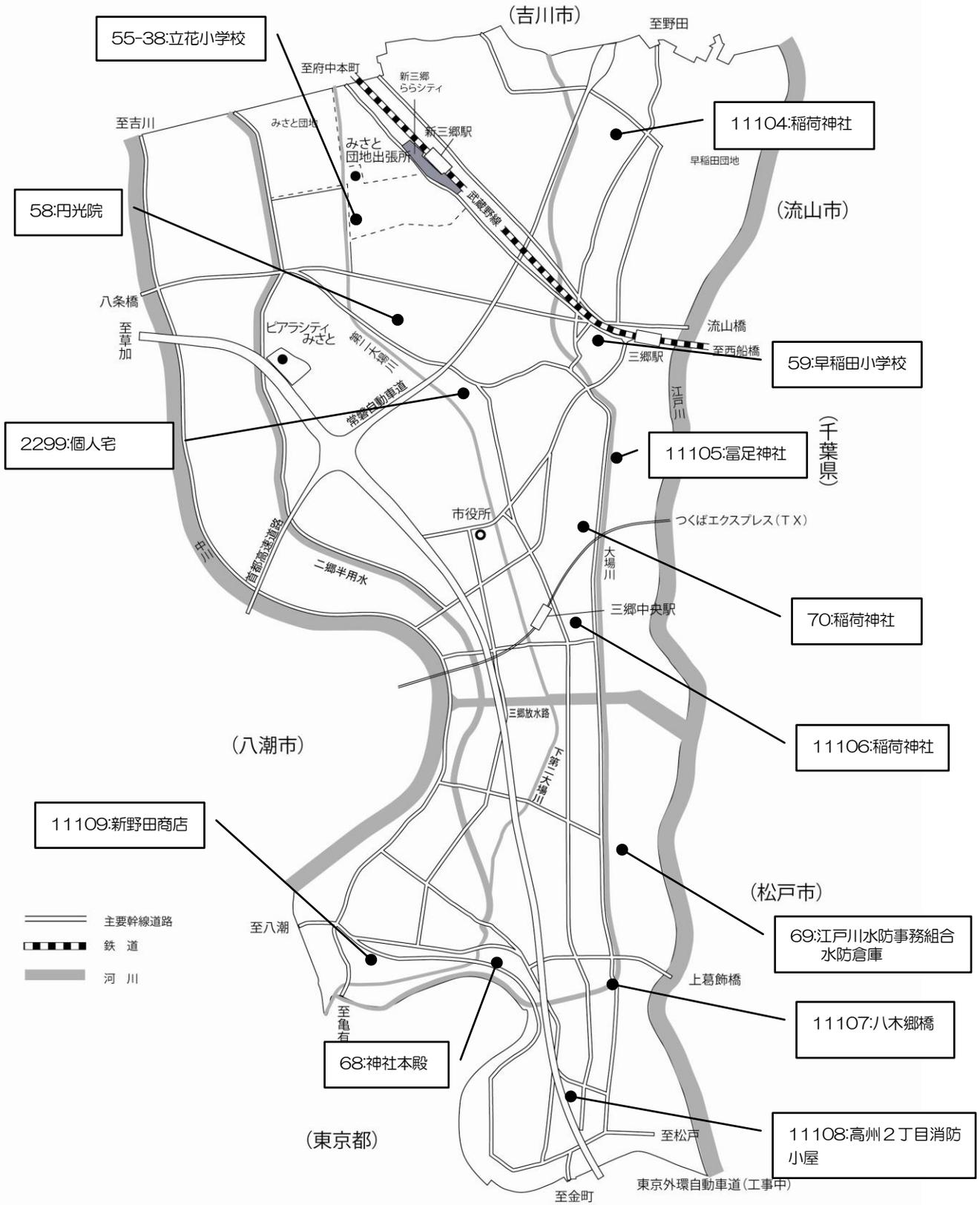
(埼玉県地盤沈下調査報告書)

基準番号	目標・所在地	調査開始	調査開始時の真高	H22~23	H23~24	H24~25	過去5年間の変動量	調査開始からの変動量	H25. 1. 1の真高
58	円光院西南角 (南蓮沼614)	S36. 2. 1	3, 651	-7	-48	-2	-58	-969	2,659
68	神社本殿石垣下東南角 (鷹野5-513)	S36. 2. 1	2, 750	-6	-45	-2	-51	-975	1,754
69	江戸川水防事務組合水防倉庫裏 (鷹野1-492先)	S36. 2. 1	2, 041	-4	-45	-1	-52	-912	1,645
70	稲荷神社東中央 (谷中52)	S36. 2. 1	2, 360	-6	-46	-4	-60	-1004	1,332
2299	個人宅北側 (笹塚18)	S36. 2. 1	3, 001	-8	-48	0	-59	-831	2,146
11104	稲荷神社 (早稲田8-17-9)	S36. 2. 1	2, 672	-4	-50	-3	-56	-130	2,518
11105	富足神社 (岩野木119)	S36. 2. 1	3, 278	-5	-49	-2	-57	-222	3,032
11106	稲荷神社 (新和1-441)	S36. 2. 1	2, 980	-6	-46	-4	-60	-1025	1,932
11107	八木郷橋右岸 (鷹野4-81)	S36. 2. 1	2, 371	-7	-52	-3	-64	-774	1,573
11108	高州2丁目消防小屋 (高州2-297-1)	S36. 2. 1	3, 295	-6	-45	-1	-49	-422	2,850
11109	新野田商店前 (戸ヶ崎4-235)	S36. 2. 1	2, 645	-6	-44	-1	-48	-805	1,818
55-38	立花小学校校庭北西角 (彦成4-3-18)	S56. 1. 1	2, 388	-8	-50	-4	-62	-67	2,119
59	早稲田小学校校庭西南角 (三郷3-2)	S58. 1. 1	2, 380	-4	-49	-1	-54	-45	2,311

※過去3年間の変動量は、それぞれ各年度の変動量について、小数点以下も含めた実数を合計した後、各年度については再度小数点第1位で四捨五入しているため誤差が生じている箇所もある。



(2) 地盤沈下測定地点図

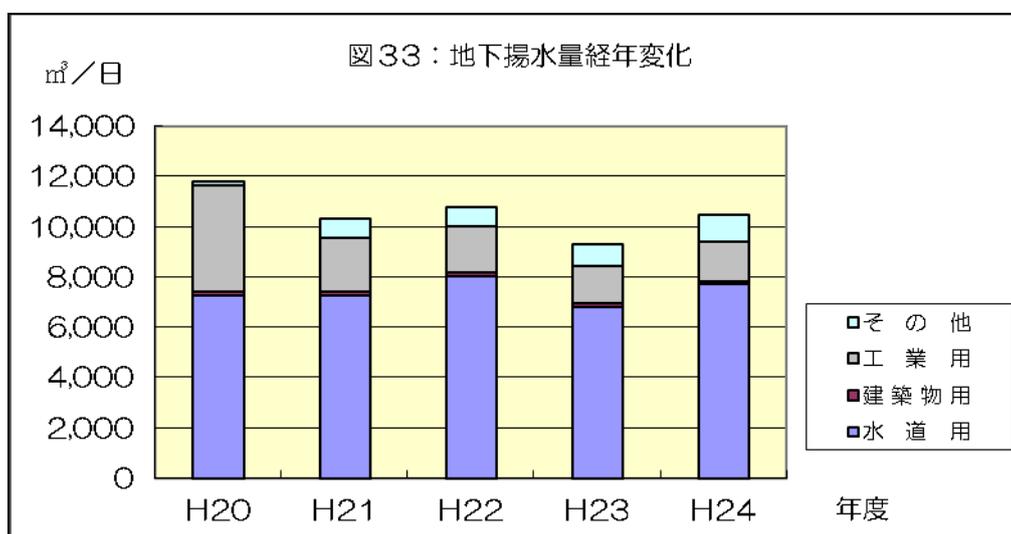


(3) 地下水揚水量

平成 24 年度の地下水揚水量は、表 33 及び図 33 のとおりである。水道用 7,719m³/日、工業用 1,582m³/日、建築物用 141m³/日、その他 1,034m³/日で計 10,474m³/日である。昨年度に比べて、水道用は 907m³/日の増加、その他については 151m³/日増加した。地下水揚水量全体では、1,163m³/日の増加であるが、過去5年間（図 33 参照）の経年変化は、ほぼ横ばいである。

地下水揚水量経年変化（表 33） [単位：m³/日]

項目・年度	22年度	23年度	24年度
水道用	8,066	6,812	7,719
建築物用	146	140	141
工業用	1,818	1,496	1,582
その他	781	883	1,034
計	10,811	9,311	10,474



第 5 節 苦 情 処 理 状 況

苦情処理の概要

平成24年度の苦情処理件数（表34及び図34参照）は、年間で119件あり、このうち、典型7公害（大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、地盤沈下、悪臭）についての苦情が60件、その他が59件である。

典型7公害のうち、水質汚濁による苦情が増加傾向にあるのは、河川への油等の流出が増加したためと思われる。

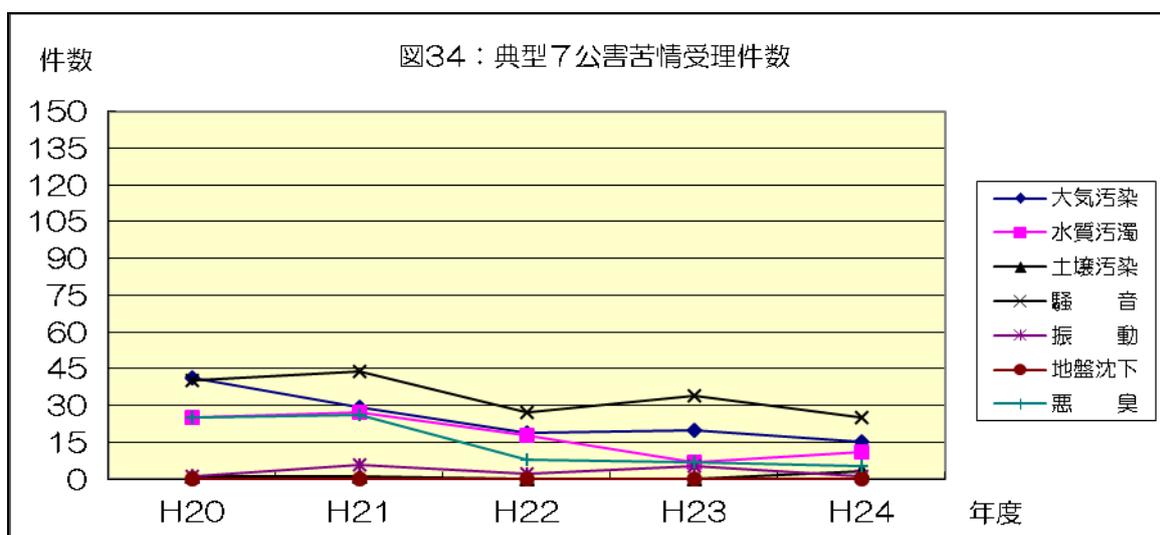
また、近年では、騒音と振動等の複合型公害の苦情が増加している。
その他の苦情については、ほとんどが雑草の繁茂による苦情である。

年度別苦情処理件数 [単位：件] (表34)

項目・年度		22年度	23年度	24年度
典型7公害	大気汚染	19	20	15
	水質汚濁	18	7	11
	土壌汚染	0	0	3
	騒音	27	34	25
	振動	2	5	1
	地盤沈下	0	0	0
	悪臭	8	7	5
その他	69	90	59	
合計	143	163	119	



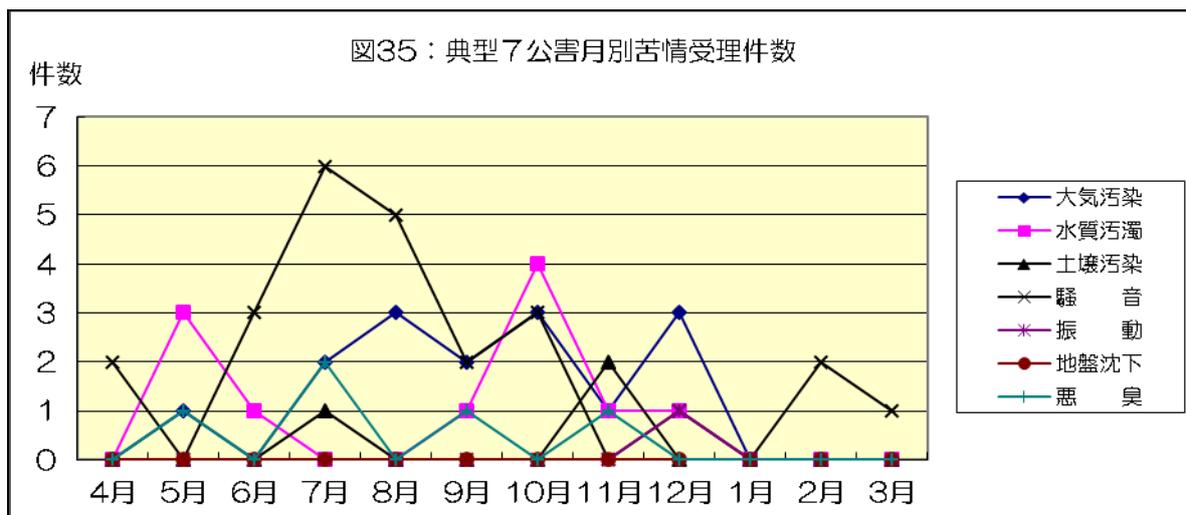
野外焼却の現場の様子



平成24年度の月別苦情処理件数（表35及び図35参照）をみると、6月から10月くらいにかけて苦情が多く、冬期には少ないという傾向がわかる。昨年に比べ、水質汚濁に係る苦情は減少した。それ以外の苦情については横ばいか増加するという結果であった。

平成24年度月別苦情件数（表35）

項目・月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
大気汚染	0	1	0	2	3	2	3	1	3	0	0	0	15
水質汚濁	0	3	1	0	0	1	4	1	1	0	0	0	11
土壌汚染	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	3
騒音	2	0	3	6	5	2	3	0	1	0	2	1	25
振動	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
地盤沈下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
悪臭	0	1	0	2	0	1	0	1	0	0	0	0	5
その他	0	1	7	13	11	8	12	1	5	0	1	0	59
合計	2	6	11	24	19	14	22	6	11	0	3	1	119



第 6 節 ダイオキシン類

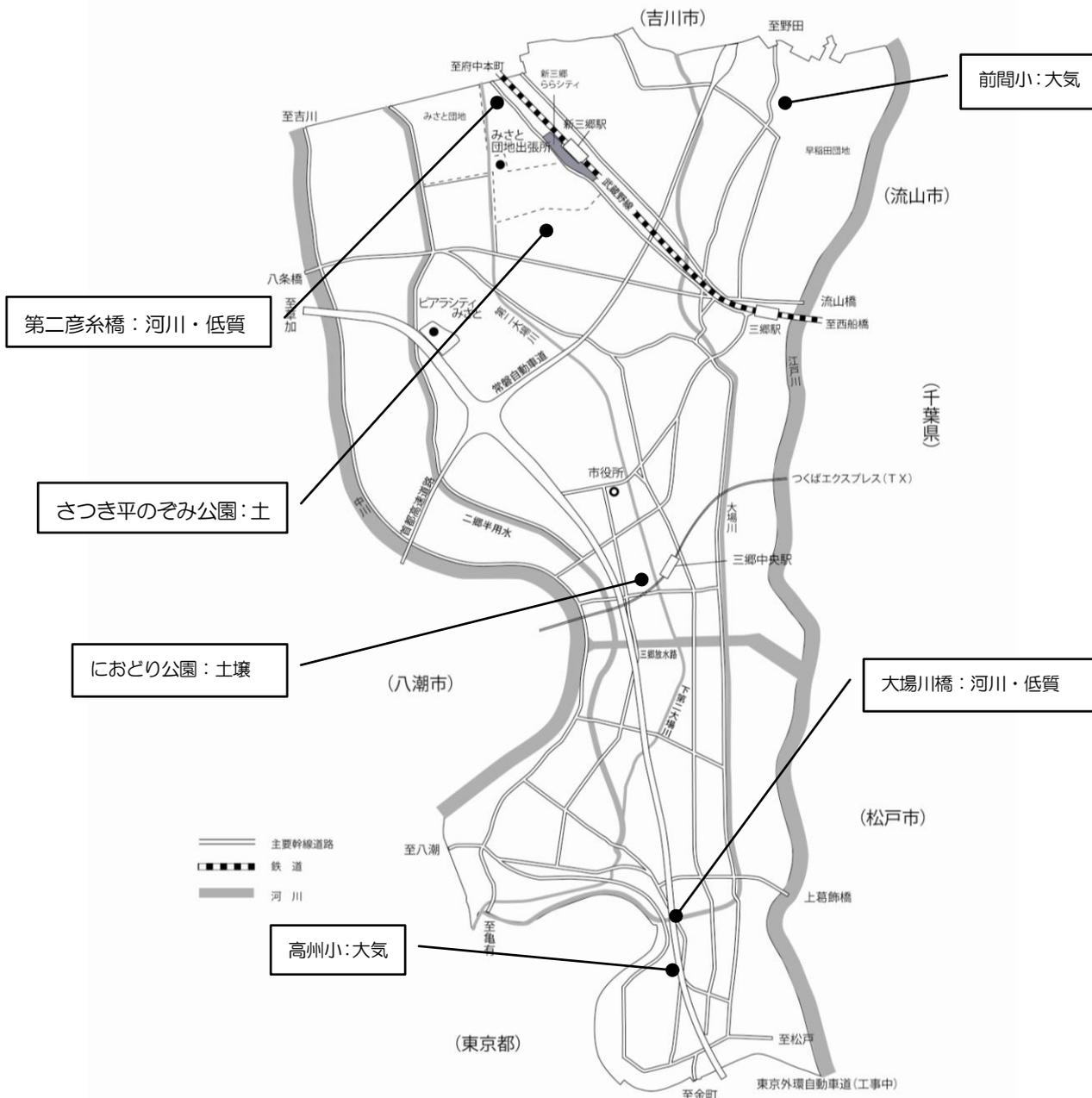
1 環境基準等

(1) 環境基準値

環境項目	単 位	環境基準値
大 気	pg-TEQ / m ³	0.6
土 壌	pg-TEQ / g	1,000
河 川 水	pg-TEQ / ㍓	1
河川底質	pg-TEQ / g	150
1日摂取量	pg-TEQ/体重kg/日	*4

※ 印は、暫定基準 注：pg (ピコグラム) = 1兆分の1

(2) ダイオキシン類測定地点図



2 ダイオキシン類の調査

(1) 大気の測定結果と評価

平成24年度は、大気中のダイオキシン類調査を2地点で各2回行なった。その調査結果は表36のとおりである。2地点の年平均値は、 $0.040\text{pg-TEQ}/\text{m}^3$ であり、季節により値に開きはあるものの、環境基準を下回っている。

経年変化を見ると減少傾向が見られる。

大気におけるダイオキシン類の環境基準 ($0.6\text{pg-TEQ}/\text{m}^3$) と比較して、今年度の数値は2地点とも下回っている。

H24年度・ダイオキシン類（大気）測定結果

[単位： $\text{pg-TEQ}/\text{m}^3$ （ピコグラム）]（表36）

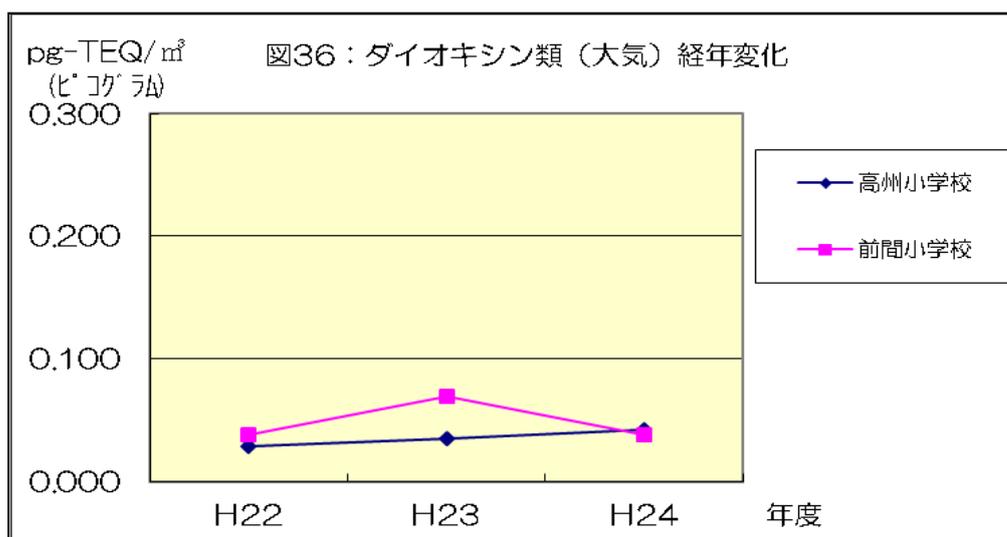
地点・年月	H24 7/25~8/1	H25 1/18~1/25
高州小学校	0.018	0.066
前間小学校	0.023	0.052



分析機関での分析の様子

ダイオキシン類（大気）経年変化 [単位： $\text{pg-TEQ}/\text{m}^3$ （ピコグラム）]（表37）

地点・年月	平成22年度	平成23年度	平成24年度
高州小学校	0.029	0.035	0.042
前間小学校	0.038	0.070	0.038



(2) 土壌の測定結果と評価

平成 24 年度の土壌中のダイオキシン類調査についての調査結果は表 38 のとおりである。数値は 0.017~2.8pg-TEQ/g となり、2 地点の平均値は 0.843pg-TEQ/g となる。

土壌中におけるダイオキシン類の環境基準値 (1,000pg-TEQ/g) と比較すると、測定値は大きく下回っている。

ダイオキシン類 (土壌) 経年変化 [単位: pg-TEQ/g (ピコグラム)] (表 38)

地点・年月	H22.10.12	地点・年月	H23.10.7	地点・年月	H24.10.9
花和田公園	3.9	戸ヶ崎みなみ公園	0.086	におどり公園	0.017
長戸呂ちびっこ広場	2.3	彦成公園	1.6	さつき平のぞみ公園	2.8

(3) 河川底質の測定結果と評価

平成 24 年度の河川底質中のダイオキシン類調査についての調査結果は表 39 のとおりである。調査場所は、大場川及び第二大場川のそれぞれ 1 ヶ所を調査し、平均値は 8.6pg-TEQ/g であった。

河川底質中におけるダイオキシン類の環境評価については、環境基準 (150pg-TEQ/g) との比較では、それぞれの調査地点において低い値であった。

また、それぞれの地点において過去に使用された除草剤による影響と考えられる調査結果が得られた。

ダイオキシン類 (河川底質) 経年変化 [単位: pg-TEQ/g (ピコグラム)] (表 39)

地点・年月	H22.11.11	地点・年月	H23. 11. 7	地点・年月	H24. 11. 5
大場川橋 (大場川)	3.6	大場川橋 (大場川)	2.3	大場川橋 (大場川)	2.2
第二彦糸橋 (第二大場川)	83	第二彦糸橋 (第二大場川)	23	第二彦糸橋 (第二大場川)	15

(4) 河川水の測定結果と評価

平成 24 年度の河川水中のダイオキシン類調査についての調査結果は表 40 のとおりである。調査場所は、大場川及び第二大場川のそれぞれ 1 ヶ所を調査し、平均値は 0.81pg-TEQ/l であった。

調査地点 2 地点中 2 地点とも、環境基準値 (1pg-TEQ/l) 内であった。

ダイオキシン類 (河川水) 経年変化 [単位: pg-TEQ/g (ピコグラム)] (表 40)

地点・年月	H22.11.11	地点・年月	H23. 11. 7	地点・年月	H24. 11. 5
大場川橋 (大場川)	0.46	大場川橋 (大場川)	0.39	大場川橋 (大場川)	0.61
第二彦糸橋 (第二大場川)	0.46	第二彦糸橋 (第二大場川)	0.98	第二彦糸橋 (第二大場川)	1.00

